

「世界の名将から学ぶ勝利をするために必要なチーム作り」

～早稲田大学 OB の日本を代表する名監督と比較して～

How to build a team which can win learning from the worlds greatest coaches.

-Comparing with the famous coaches in Japan who graduated Waseda University-

1K09B121-7

指導教員 主査 太田 章 先生

高橋拓也

副査 礪 繁雄 先生

【目的】

プロの監督は、最もその危機に立つとてもシビアな職業である。勝利を義務付けられる中で、サッカーという絶対がないスポーツで、様々な問題をクリアしながら勝利をするために独自の手腕でチームを上げなくてはならない。世界の名将は、日本よりも高いレベルの中で、勝利をし続けている。絶対が無いスポーツの中で世界の監督はどのようなチーム作りをしているのかという事を、日本を代表する監督と比較しながら研究・考察する事を目的とした。

【方法】

FIFA チャンピオンズリーグにて、二回以上優勝しているジョゼ・モウリーニョ、ジョゼップ・グラウディオラ、カルロ・アンチェロッティ、フース・ヒディンクの世界の名将と呼ばれる監督と早稲田大学 OB で、日本を代表する、岡田武史、西野朗、城福浩の監督のメンタルモデルをそれぞれ導きだし、海外の監督の共通点、日本の監督の共通点を出し、比較する。

モウリーニョは、チームマネジメント、質の高い練習、プレーの原則を大事にしていく中で、チームの連携・団結したチームを目指していて、勝利を勝ち取るというメンタルモデルである。グラウディオラは、チームマネジメント、スペクトルなサッカーハードトレーニングを大切にして行くなかで、チーム団結したチームを目指し、勝利を勝ち取るというメンタルモデルであった。ヒディンクは、チームマネジメント、トータルフットボール、ダーティープレーを大切にしていて、ヒディンクなりの世界一流のチームを目指し、勝利を勝ち取るというメンタルモデルであった。アンチェロッティは、チームマネジメント、攻守の切り替え、選手を活かした戦い方を大切にして行くなかで、最高のチーム作りを目指し、勝利を勝ち取るというメンタルモデルであった。

岡田は、チームマネジメント、チームコンセプト。チームフィロソフィが大切にしていく中で、脱チームフィロソフィのチームを目指し、勝利を勝ち取るというメンタルモデルである。西野朗は、チームマネジメント、チーム戦術、外国籍に頼らないチーム作りを大切にして行くなかで、攻撃的なチーム作りを目指し、勝利を目指している。城福は、チームマネジメント、ボールポゼッションチームフィロソフィが大切な中で、情熱のあるチーム作りを目指し、勝利を目指している。

【結果】

海外の監督の共通点として、海外の監督の共通点として、チームマネジメントでは、コミュニケーションとチーム団結の二つが挙げられる。コミュニケーションを取りながら監督がチームの輪の中でリーダーシップをとり、団結させ、チームをひとつのベクトルに向けてパワーを放出することができるように力を注いでいる。

戦術面では、全体をコンパクトに保ち、ボールを奪われた時に、相手にプレーできるスペースをなくし、自由を与えることなく、前線からすぐに守備に行くことや、相手のクリアボールを先に触り、二次攻撃、三次攻撃につなげる事ができる。全体をコンパクトにすることは共通して言えるところである。

日本の監督の共通点として、チームマネジメントでは競争心があげられる。「競争」の環境を作る事で、ポジション争いが激しくなり、チームのレベルアップにもつながると日本人監督は考えている。

戦術面では、守備のところで、コンパクトに保つことが共通している。相手に自由にプレーできるスペースをなくし、自由にさせることなく、二次攻撃、三時攻撃につなげるためにも、全体をコンパクトにすることが大切だと考えている。

【考察】

日本の監督が、「世界の名称から学ぶ勝利をするために必要なチーム作り」として、海外の監督から学ぶ事は、チームマネジメントのところで監督と選手との距離をとって接するのではなく、コミュニケーションを取りながら、選手との距離を縮め、チームメイトの輪の中心でリーダーシップを発揮し、精神的な部分のケアを十分にすることと、チームをひとつの方向へベクトルを向かわせ、チームとして戦うチームをつくりあげなくてはいけないという所である。